

「音大生の100曲」作成に向けての予備研究

柴田 篤志

Preliminary research for “100 TUNES for Music college students”

《研究の目的》

音楽大学で学ぶ学生にとって、知識として必聴の楽曲リストを作成すること

0. はじめに

そもそも音楽大学とは、専門的に音楽を学ぶ教育研究機関である。この「音楽大学における音楽」とは世間一般にはクラシック音楽、と認知されている。実際は、17世紀中頃から18世紀にかけてのいわゆる古典派の音楽のみを学ぶわけではないが、音楽上の文化遺産として認知される、時の淘汰を経て人類共通の資産となった楽曲が音大におけるメインのコンテンツであることは決して誤解ではない。

とはいえ、当学においては邦楽コース、ジャズ・ポピュラーコース、舞踊演劇ミュージカルコースなどが設定されており、そうしたコースに学ぶ学生は逆に「クラシック」という呼ばれる音楽群とは異なる種類の音楽を中心に学ぶ。即ち、音楽大学における“音楽”は、市井に流れる音楽同様多様化しており、「共通の聴取経験を求めうる」楽曲とは、これまで“音大生ならこのくらいは”といわれてきた定番曲そのままスライドさせたものではあり得ない…筆者は音楽大学勤務の中で、これを肌で感じた。

そこで立てた仮説が「音大生はクラシック音楽を聴かない」である。実際にバロック、古典派、ロマン派、近現代、という大雑把な括りの音楽史分類に属す“有難味があり高尚なる”音楽を実際に学生達は学ぶが、自ら演奏した曲、もしくは友人、先達が演奏した曲には深い理解を示す一方、「その曲が分かるならこれも聞いたことあるだろう」というこちらの意図は多くの場合空振りに終わる。

恐らく「体系的な学習経験」が身につけていないこと、未知のコンテンツに積極的に挑む態度が確立していないことなど、その原因は複合的だと思われるが、本研究では単純に、『この曲であれば当世の「多様化した」音楽大学学生であっても流石に知らない、聞いたことがない、と言わせてはいけない』と明言出来る曲目リストを作成することを最終目的にし、まずは音楽大学生の「クラシック音楽全般」に対する親しみがどの程度であるのか、その知識や経験にどのような偏りがあるのかを明らかにするためのデータを得ることが目

標となる。

1. 教養テーマ講義

筆者は本年度から教養テーマ講義Ⅵという講義を担当した。これは、担当教員が自由に講義内容を選択し、履修者に幅広く多様な教養を身につけるための機会を提供する、と言う趣旨で開講されている。筆者はこの授業において「音大生の100曲を作ろう」というプロジェクトを企画し、履修者に「この曲であれば知らないと言わずに恥ずかしい」と感じる楽曲を100曲リストアップして提出することで成績評価する、と申し渡して講義を開始した。

講義は、100曲リストの呼び水となる楽曲をなるべくたくさん、時代やジャンルなどの偏りをなるべく生じさせないように紹介して行くことで進む。最初は音楽史年表に沿った形で、次に作曲者や楽曲のジャンル別に非常にポピュラーな曲から、曲名すら聞いたことがないであろう曲まで広く薄く聴取する経験を与える。ただし、一つの楽曲を聴ける時間は長くて10分、概ね5分程度と想定し、90分の授業の中で10から15曲を紹介し、最終的に150~200曲をリスト作りの材料とできる様に企画した。

第一回講義から第十五回講義までに紹介した楽曲は以下の171曲（作曲者数59）である。

- | | |
|-----|---|
| 第一回 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ベートーヴェン、メヌエット 2. シュトラウスⅡ、ピチカート・ポルカ 3. クライスラー、美しきロスマリン 4. サン＝サーンス、「動物の謝肉祭」より 白鳥 5. スッペ、歌劇「軽騎兵」序曲 6. スーザ、行進曲「ワシントン・ポスト」 7. リード、「吹奏楽のための第五組曲」より ホー・ダウン |
| 第二回 | <ol style="list-style-type: none"> 8. ワーグナー、J.P.、行進曲「双頭の鷲の旗の下に」 9. アンダーソン、トランペット吹きの休日 10. クライスラー、愛の喜び 11. サン＝サーンス、「動物の謝肉祭」より 象 12. ジョプリン、イージー・ウィナー 13. ジョプリン、ジ・エンターティナー 14. アンダーソン、タイプライター 15. チャイコフスキー、ピアノ協奏曲第1番変ロ短調 16. シューマン、ピアノ協奏曲第1番イ短調 |
| 第三回 | <ol style="list-style-type: none"> 17. バホーゾ、ブラジル |

18. エルガー、愛の挨拶
19. エルガー、行進曲「威風堂々 第1番」
20. グリーク、ノルウェー舞曲第2番
21. グリーク、ホルベルグ組曲
22. グリーク、劇音楽「ペール・ギュント」より 山の魔王の宮殿にて
23. タイケ、行進曲「旧友」
24. ドヴォルザーク、交響曲第9番より 第2楽章
25. ペツォールト（伝バッハ）、メヌエット ト長調
26. バッハ、無伴奏チェロ組曲第1番より プレリユード
27. バッハ、管絃楽組曲第2番口短調BWV1067より バディネリ
28. ビゼー、アルルの女第2組曲より 第3曲メヌエット
29. ビゼー、カルメン第1組曲より 間奏曲
30. ビゼー、カルメン第1組曲より アルカラの龍騎兵
31. ブラームス、ハンガリー舞曲第5番
- 第四回 32. シュトラウスⅡ、ワルツ「美しく青きドナウ」
33. ワーグナー、R.、楽劇「トリスタンとイゾルデ」 第一幕への前奏曲
34. チャイコフスキー、組曲「くるみ割り人形」
35. シューベルト、歌曲「魔王」
36. シュトラウス、R.、交響詩「ツァラトゥストラかく語りき」
37. プロコフィエフ、音楽物語「ピーターと狼」
38. ペンデレツキ、ヒロシマの犠牲者に捧げる哀歌
39. ムソルグスキー、組曲「展覧会の絵」
40. メシアン、トゥランガリーラ交響曲
41. ラヴェル、ボレロ
42. マーラー、大地の歌
43. ケージ、易の音楽
44. ブラームス、交響曲第1番
45. プッチーニ、歌劇「蝶々夫人」より ある晴れた日に
- 第五回 46. ベートーヴェン、交響曲第5番ハ短調Op.67「田園」
47. ウェーバー、歌劇「魔弾の射手」序曲
48. バッハ、マタイ受難曲BWV.244
49. モーツァルト、セレナード第13番ト長調K.525 アイネ・クライネ・ナハトムジーク
50. モーツァルト、歌劇「魔笛」より パパパの二重唱

51. ガーシュウィン、ラプソディ・イン・ブルー
 52. サティ、三つのジムノペディ
 53. ストラヴィンスキー、バレエ音楽「春の祭典」
 54. ショスタコーヴィチ、交響曲第5番
- 第六回
55. バッハ、イタリア協奏曲BWV971
 56. バッハ、ヴァイオリン協奏曲第1番イ短調BWV1041
 57. バッハ、ヴァイオリン協奏曲第2番ホ長調BWV1042
 58. バッハ、小フーガ ト短調BWV578
 59. バッハ、トッカータとフーガ ニ短調BWV565
 60. バッハ、チェンバロ協奏曲第5番へ長調BWV1056（第二楽章）
 61. バッハ、フルートソナタ 変ホ長調BWV1031（第二楽章 シチリアーナ）
 62. バッハ、管弦楽組曲第3番BWV1068より第2曲「G線上のアリア」
 63. バッハ、ブランデンブルグ協奏曲第5番ニ長調BWV1050
 64. バッハ、カンタータBWV156より 「アリオソ」
 65. バッハ、2台のヴァイオリンのための協奏曲ニ短調BWV1043
 66. バッハ、平均律クラヴィーア曲集第1巻BWV846-BWV869
 67. バッハ、イギリス組曲第2番イ短調BWV807
 68. バッハ、無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番ニ短調BWV1003
 より シャコンヌ
- 第七回
69. モーツァルト、ディヴェルティメント第4番変ロ長調K.439より 第5楽章
 70. モーツァルト、ディヴェルティメント ニ長調K.136
 71. モーツァルト、ディヴェルティメント第17番 ニ長調K.334より 第三楽章（メヌエット）
 72. モーツァルト、交響曲第40番ト短調K.550
 73. モーツァルト、ピアノ協奏曲第20番ニ短調K.466
 74. モーツァルト、ピアノ協奏曲26番ニ長調K.537「戴冠式」
 75. モーツァルト、ホルン協奏曲第4番変ホ長調K.447より 第三楽章（メヌエット）
 76. モーツァルト、ピアノソナタ イ長調K.331（トルコ行進曲付き）
 77. モーツァルト、弦楽五重奏曲第4番ト短調K.516
- 第八回
78. ベートーヴェン、バガテル「エリーゼのために」WoO.90
 79. ベートーヴェン、交響曲第1番ハ長調Op.21
 80. ベートーヴェン、交響曲第2番ニ長調Op.36
 81. ベートーヴェン、交響曲第3番変ホ長調Op.55「英雄」

82. ベートーヴェン、交響曲第4番変ロ長調Op.60
83. ベートーヴェン、交響曲第6番ヘ長調Op.68「田園」
84. ベートーヴェン、交響曲第7番イ長調Op.92
85. ベートーヴェン、交響曲第8番ヘ長調Op.93
86. ベートーヴェン、交響曲第9番ニ短調Op.125「合唱付き」
87. ベートーヴェン、劇付随音楽「アテネの廃墟」よりトルコ行進曲
88. ベートーヴェン、劇音楽「エグモント」へ短調Op.84
89. ベートーヴェン、序曲「コリオラン」ハ短調Op.62
90. ベートーヴェン、序曲レオノーレ第3番ハ長調Op.72b
91. ベートーヴェン、ピアノ協奏曲第3番ハ短調Op.37
92. ベートーヴェン、ピアノ協奏曲第4番ト長調Op.58
93. ベートーヴェン、ピアノ協奏曲第5番変ホ長調Op.73「皇帝」
94. ベートーヴェン、ヴァイオリン協奏曲ニ長調Op.61
95. ベートーヴェン、ヴァイオリンソナタ第5番ヘ長調Op.24「春」
96. ベートーヴェン、ヴァイオリンソナタ第9番イ長調Op.47「クロイツェル」
- 第九回 97. ベートーヴェン、ピアノソナタ第20番ト長調Op.49-2
98. ベートーヴェン、ピアノソナタ第19番ト短調Op.49-1
99. ベートーヴェン、ピアノソナタ第8番ハ短調Op.3「悲愴」
100. ベートーヴェン、ピアノソナタ第14番嬰ハ短調Op.27-2「月光」
101. ベートーヴェン、ピアノソナタ第17番ニ短調Op.31-2「テンペスト」
102. ベートーヴェン、ピアノソナタ第21番ハ長調Op.53「ヴァルトシュタイン」
103. ベートーヴェン、ピアノソナタ第23番ヘ短調Op.57「熱情」
104. ベートーヴェン、ピアノソナタ第26番変ホ長調Op.81a「告别」
105. シューベルト、交響曲第7(8)番ロ短調「未完成」
106. シューベルト、交響曲第8(9)ハ長調「グレート」
107. ベルリオーズ、幻想交響曲ハ短調Op.14
108. メンデルスゾーン、交響曲第4番イ長調Op.90
109. シューマン、交響曲第3番変ホ長調Op.97「ライン」
110. サン＝サーンス、交響曲第3番ハ短調Op.78「オルガン付き」
111. チャイコフスキー、交響曲第6番ロ短調Op.74「悲愴」
- 第十回 112. マーラー、交響曲第5番嬰ハ短調
113. シベリウス、交響曲第2番ニ長調Op.43
114. ニールセン、交響曲第4番Op.29 (FS.76)「不滅(滅ぼし得ざるもの)」
115. ラフマニノフ、交響曲第2番ホ短調Op.27

116. リスト、交響詩「レ・プレリュード」
117. シュトラウス、R、交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」
118. ドビュッシー、「牧神の午後への前奏曲」
119. ドビュッシー、交響詩「海」
120. サン＝サーンス、交響詩「死の舞踏」
121. スメタナ、交響詩「我が祖国」(第2曲 ブルタヴァ)
122. ムソルグスキー、交響詩「禿げ山の一夜」
123. デュカ(デュカス)、交響詩「魔法使いの弟子」
124. ボロディン、交響的絵画「中央アジアの草原にて」
125. ボロディン、歌劇「イーゴリ公」より だったん人(ポロヴェツ人)の踊り
126. シベリウス、交響詩「フィンランディア」
- 第十一回 127. メンデルスゾーン、劇付随音楽「夏の夜の夢」より結婚行進曲
128. メンデルスゾーン、演奏会用序曲「フィンガルの洞窟」
129. ブラームス、大学祝典序曲
130. ブラームス、悲劇的序曲
131. チャイコフスキー、序曲「1812年」
132. チャイコフスキー、幻想的序曲「ロメオとジュリエット」
133. グリンカ、歌劇「ルスランとリュドミラ」序曲
134. ショスタコーヴィチ、祝典序曲
135. グリーグ、劇音楽「ペール・ギュント」第一組曲
- 第十二回 136. ホルスト、大管弦楽のための組曲「惑星」
137. チャイコフスキー、バレエ音楽「白鳥の湖」
138. チャイコフスキー、バレエ音楽「くるみ割り人形」
139. ストラヴィンスキー、バレエ組曲「火の鳥」
140. ストラヴィンスキー、バレエ音楽「ペトルーシュカ」
141. ラヴェル、バレエ「ダフニスとクロエ」第二組曲
142. ファリャ、バレエ「恋は魔術師」より 火祭りの踊り
143. ハチャトゥリアン、バレエ「ガイーヌ」より 剣の舞
- 第十三回 144. ロッシーニ、歌劇「ウィリアム・テル」序曲より スイス軍の行進
145. ロッシーニ、歌劇「セヴィリアの理髪師」序曲
146. モーツァルト、歌劇「フィガロの結婚」序曲
147. モーツァルト、歌劇「後宮からの逃走」序曲
148. ウェーバー、歌劇「オベロン」序曲
149. ワーグナー、楽劇「タンホイザー」第一幕への前奏曲

150. ワーグナー、楽劇「ローエングリン」第一幕への前奏曲
 151. ワーグナー、楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」第一幕への前奏曲
 152. ワーグナー、楽劇「さまよえるオランダ人」序曲
 153. ヴェルディ、歌劇「椿姫」序曲
 154. スメタナ、歌劇「売られた花嫁」序曲
 155. フォーレ、劇付随音楽「ペレアスとメリザンド」より シシリエンヌ
 第十四回 156. ショパン、ピアノ協奏曲第1番ホ短調Op.11
 157. ショパン、ピアノ協奏曲第2番ヘ短調Op.21
 158. グリーク、ピアノ協奏曲イ短調Op.16
 159. ブラームス、ピアノ協奏曲第2番変ロ長調Op.83
 160. ラヴェル、ピアノ協奏曲ト長調
 161. ラヴェル、左手のためのピアノ協奏曲
 162. プロコフィエフ、ピアノ協奏曲第3番ハ長調Op.26
 163. プロコフィエフ、ピアノ協奏曲第1番Op.10
 164. ラフマニノフ、ピアノ協奏曲第2番ハ短調Op.18
 165. ラフマニノフ、ピアノ協奏曲第3番ニ短調Op.30
 166. ラフマニノフ、ピアノ協奏曲第1番嬰ヘ短調Op.1
 167. ショスタコーヴィチ、ピアノ協奏曲第1番ハ短調Op.35
 第十五回 168. シベリウス、カレリア組曲より 行進曲
 169. レスピーギ、交響詩「ローマの松」より アッピア街道の松
 170. 伊福部昭、SF交響ファンタジー第1番
 171. シュトラウスⅡ、歌劇「こうもり」序曲

授業で用いた楽曲の選定に関しては本稿の主たる目的ではないため、ごく簡単に述べる。
 第一～三回講義では「小・中学校時代」に聞いた可能性のある楽曲を。

第四～五回講義では、第三回までに扱わなかった「音楽史年表に記載されうる」楽曲を。

第六回からバロック、古典派の代表的作曲家（として小中学校で学習したはず）のJ.S.バッハ、モーツァルト、ベートーヴェンの曲のうち「恐らく耳にしたことがあるであろう」と、「これは知って置いて欲しい」というものを。このシリーズがベートーヴェンで終わるため、交響曲を多く紹介することに連続させて「有名な交響曲」→「交響詩」→「演奏会用序曲、劇付随音楽、バレエ音楽」→「歌劇序曲」→「協奏曲」を扱った。

総曲数200程度を目標にしていたが叶わず、室内楽や器楽独奏曲は前半部で扱ったのみで、後半はほぼ管弦楽曲一辺倒になった部分は反省点である。また、楽曲ジャンル別の紹介を講義当初には計画していなかったため、ストックしてあった候補曲を逐次投入する結

果となり、統一感に欠ける楽曲リストになってしまった。

授業においては、第五回授業終了時、第十回授業終了時に、リストの中間報告を提出させている。最終的には100曲のリストを作ること、と申し渡してはあるが、そう簡単に100曲は上げられないだろうという想定から「授業で紹介した曲もリストに含めて宜しい」としてある。ある意味、授業では紹介されなかったものがどの程度定番曲として挙げられるかを見極めたかったという意図もある。

2. 提出された100曲リストに基づく分析

提出されたリストは提出人数32人、延べ曲数2963、実曲数626（386+199+41）作曲者数136に及ぶものとなった。一人あたりの曲数平均は92.6曲となり、当初の想定より多くの曲をリストに記載して提出したものが多かった。

ここから、明らかに誤記であると考えられる3データを削除し、分析を試みる。なお、以下に示す「曲数」とは延べではなく正味の曲数となる。

・2-1 総曲数626に見る分類と、講義による紹介曲数171との関係

紹介曲がかなり管弦楽曲に偏ったため、リストに見られる曲にも偏りがあると予想した。

結果は、声楽曲41（オペラアリアや合唱曲は除く歌曲）、ピアノ曲199、その他（管弦楽曲など）386となった。それぞれ6.5%、31.8%、61.7%となる。これは紹介曲にみる比率とはかなり異なっている。紹介曲においては声楽曲1（35. 魔王）で0.6%、ピアノ曲17で10%、その他が153で89.4%である。

・2-2 歌曲における紹介曲との関係

歌曲において、曲数は紹介数の40倍だが占有率は0.6→6.5と10倍以上になった。音大に進学するまでに「必ず聞き知っているであろう」と想定出来る“歌曲”は少ないだろうと想定したことが誤りであったことになる。ただし、歌曲としてあげられたものには以下のような特徴がある。

シューベルト、F.P.	「魔王」D.328	25
シューベルト、F.P.	歌曲「野ばら」D.257	13
シューベルト、F.P.	エレンの歌第3番「アヴェ・マリア」D.839	9
ガーシュイン、G.	アイ・ガット・リズム	7
シューベルト、F.P.	歌曲集「白鳥の歌」	7
シューマン、R.	歌曲集「詩人の恋」	6
山田耕筰	からたちの花	5
シューベルト、F.P.	歌曲「子守唄」	4

シューベルト、F.P.	歌曲「鱒」	4
サティ、E.	ジュ・トゥ・ヴ	4
ベートーヴェン、L.V.	君を愛す (Ich liebe dich)	4
シューベルト、F.P.	歌曲「旅人の夜の歌」	3
シューベルト、F.P.	歌曲「ミニヨンの歌」	2
シューマン、R.	歌曲「献呈」	2
ブラームス、J.	子守歌	2
山田耕筰	赤とんぼ	2
滝廉太郎	組歌「四季」	2

(二名以上がリストに含めたもののみ、一名だけ挙げた曲はこの表の他に24曲)

32名中25名がリストに入れた「魔王」は授業で紹介した唯一の歌曲であると同時に、中学校の教科書には必ず鑑賞教材として掲載されている、旧共通教材である。その認知度は高く、リスト上位に来るのは想定通りであった。13名がリストに入れた「野ばら」は本来なら授業で紹介するべき曲であったと言える。ただ、野ばらはウェルナーのものもあり、両者とも昭和の教科書には掲載されていたため、紹介するのなら2曲同時に、との考えから授業では割愛している。

想定出来ていなかったのは同じく中学校時代の教科書に掲載されていた「赤とんぼ」(山田耕筰)、「花」(滝廉太郎)で、これらが上がるとは予想していなかった。「からたちの花」であれば歌曲として高校時代に接した可能性を無視出来ないと考えていたが、こうした曲のリスト入りから“リストの幅の広さ”が逆に示されたと考える。なお、「組歌 四季」としたものは1名、「四季より 花」としたものが1名であった。組歌として紹介したものは“音大生の教養”という部分を見据えてくれたと評価している。

また、歌曲集として上がっている「白鳥の歌」のうち、「セレナーデ」が5、「楽に寄す」が1であるのに対し、「詩人の恋」は曲集中の単独曲を挙げたものはいなかった。

・2-3 ピアノ曲における紹介曲との関係

テーマ講義において、ピアノ曲は“意図的に”紹介を控えている。控えたとはいえ、17曲(全体の10%程)を紹介しており、その詳細は12. イージー・ウィナー、13. ジ・エンターティナー、25. メヌエット、52. ジムノペディ、55. イタリア協奏曲、66. 平均律第1巻、67. イギリス組曲、76. ソナタK.331、78. エリーゼのために、97. ピアノソナタ第20番、98. ピアノソナタ第19番、99. ピアノソナタ悲愴、100. ピアノソナタ月光、101. ピアノソナタテンペスト、102. ピアノソナタヴァルトシュタイン、103. ピアノソナタ熱情、104. ピアノソナタ告别、となる(数字は講義で紹介した曲リストの通し番号)。

提出されたリストでは、この17曲中実に16曲が最低でも3人によって採用されていた。

モーツァルト、W.A.	ピアノソナタK.331	28
ベートーヴェン、L.v.	ピアノソナタ第14番嬰ハ短調Op.27-2「月光」	24
ベートーヴェン、L.v.	ピアノソナタ第8番ハ短調Op.13「悲愴」	24
ベートーヴェン、L.v.	バガテルWoO.59「エリーゼのために」	19
サティ、E.	3つのジムノペディ	17
ベートーヴェン、L.v.	ピアノソナタ第17番ニ短調Op.31-2「テンペスト」	15
ジョブリン、S.	The Entertainer	14
ベートーヴェン、L.v.	ピアノソナタ第23番ヘ短調Op.57 熱情	13
ジョブリン、S.	Easy Winner	10
バッハ、J.S.	イタリア協奏曲BWV971	10
ベートーヴェン、L.v.	ピアノソナタ第21番ハ長調Op.53「ヴァルトシュタイン」	7
ベートーヴェン、L.v.	ピアノソナタ第26番変ホ長調Op.81a「告別」	7
ベツォールト、C. (伝バッハ)	「アンナ・マグダレーナ・バッハの音楽帳」よりメヌエット ト長調	5
バッハ、J.S.	平均律クラヴィーア曲集第1巻BWV846-BWV869	4
ベートーヴェン、L.v.	ピアノソナタ第20番ト長調Op.49-2	4
ベートーヴェン、L.v.	ピアノソナタ第19番ト短調Op.49-1	3

(テーマ講義で紹介したピアノ曲17のうち、リストに採用された曲16)

率直に言って、予想外の採用率と考える。特にベートーヴェンのピアノソナタは「ここまで紹介しなくても良いかもしれない」と悩みつつ、かなり多くを講義では紹介したが、その全てが採用された。唯一、紹介したにもかかわらず採用されなかったのはJ.S.バッハ「イギリス組曲第2番」のみであった。

最も多く採用されたのは33名中28名がリストに入れたモーツァルト「ソナタK.331」であるが、これは28のうち22が「トルコ行進曲」として採用していた。この採用数は、単独曲としてはラヴェルの「ボレロ」と並んで今回の調査では最多となる。音大生の考える「最もポピュラーなピアノ曲」として推されたと解釈出来る。

ベートーヴェンのソナタは音大生には耳に馴染みがある曲だと予想したが、いわゆる三大ソナタ(悲愴、熱情、月光)が上位ではなかったのが新たな発見である。「月光」のポピュラリティが高いであろうことは予想通りだが、同じ24名が「悲愴」も採用していたことは注目出来る。ベートーヴェンのピアノ曲、という括りで見れば第三位は「エリーゼのために」になったことも予想外で、これは講義で紹介しなければ多分上がってこなかったのではないかと考える。「エリーゼのために」を除外して考えるとピアノソナタの第三位は「テンペスト」になり、三大ソナタとして人口に膾炙しているだろうと考えていた「熱情」は第四位となった。近年、三大ソナタから「熱情」が落ちて「テンペスト」が加えられることがあるが、根拠のあることが証明されたと考える。なお、「テンペスト」と言えば有名なのは第三楽章、と考えていたが、第三楽章と指定してこの曲を挙げたのは1に留まった。ただし、「月光」においても第一楽章と指定したものは1に留まっており、指定が無いから

全曲（全楽章）を推している、とは言えない可能性はある。

根拠はなかったが、この曲は紹介すれば推して貰えるだろうと思ったジョブリン「イージーウィナー」「ジ・エンターティナー」が2曲とも10を越えて採用されたことも特筆しておきたい。テーマ講義において、この曲は「知っている」と反応したものは多かったが、作曲家と曲名を答えられたものは殆ど居なかった。つまり「知っているのに知らなかった」曲の代表であり、教養テーマ講義の“レパートリー曲の範囲を広げる”という目的を達した証左と考えたい。

・2-4 その他の曲（管弦楽曲など）における紹介曲との関係

ここまで声楽曲で紹介1→採用1、ピアノ曲で紹介17→採用16と、テーマ講義において紹介した曲がほぼ全て採用されているが、その他のカテゴリでは紹介153に対し採用は149となり、採用されなかったのは4曲のみであった。詳細は64. カンタータBWV.156 アリオソ、70. デイベルティメントK.136、71. デイベルティメント第17番、90. レオノーレ第3番、106. 交響曲「グレート」である。とくに音楽史的に重要として紹介したものの中にはどう考えてもポピュラーとはいえないものも多かった一方、40. トゥランガリーラ交響曲には複数の採用があったし、採用1だけのもので含めれば「これは上がらないだろう」と考えた楽曲も多く採用されたことが目立った。

今回の研究の前提として、テーマ講義において紹介される曲は「リストアップするには余りに当たり前すぎる」と回避されるのでは、と予想したが寧ろ逆の効果をもたらしていることが分かる。恐らく、最終レポートに「100曲」という曲目数の縛りを設けたため、独自選出の楽曲では足りない部分を授業で聴いて印象に残った紹介曲によって埋めていると推察する。

歌曲では採用2まで、ピアノ曲では全ての採用された曲リストを挙げているが、紙面の制約もあるためその他においては採用10までの59曲をリストとして挙げる。

チャイコフスキー、P.I.	バレエ音楽「くるみ割り人形」	60
サン＝サーンス、C.	「動物の謝肉祭」	49
ホルスト、G.	組曲「惑星」	29
モーツァルト、W.A.	歌劇「フィガロの結婚」K.492	28
ラヴェル、M.	ボレロ	28
ムソルグスキー、M.	組曲「展覧会の絵」	27
チャイコフスキー、P.I.	バレエ音楽「白鳥の湖」	26
エルガー、E.	行進曲「威風堂々」第1番	25
ドヴォルザーク、A.	交響曲第9番「新世界より」Op.95	24
バッハ、J.S.	管弦楽組曲第3番BWV1068より第2曲「G線上のアリア」	24
スメタナ、B.	交響詩「わが祖国」	23

ベートーヴェン、L.v.	交響曲第5番ハ短調 Op.67	23
モーツァルト、W.A.	セレナーデ「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」K.525	23
アンダーソン、L.	トランペット吹きの休日	20
エルガー、E.	愛の挨拶	20
ガーシュイン、G.	ラブソディ・イン・ブルー	20
メンデルスゾーン、F.	夏の夜の夢より	20
モーツァルト、W.A.	歌劇「魔笛」K.620	20
グリーグ、E.	組曲「ペール・ギュント」	19
スッペ、F.v.	歌劇「軽騎兵」序曲	19
バッハ、J.S.	トッカータとフーガ 二短調 BWV565	19
ロッシーニ、G.	歌劇「ウィリアム・テル」	18
ハチャトゥリアン、A.I.	バレエ音楽「ガイース」より剣の舞	17
ビゼー、G.	カルメン第1組曲より	17
ブラームス、J.	ハンガリー舞曲	17
シュトラウスⅡ、J.	ワルツ「美しく青きドナウ」	16
ベートーヴェン、L.v.	交響曲第9番二短調 Op.125「合唱付き」	16
ポロディン、A.	歌劇「イーゴリ公」より だったん人の踊り	16
ビゼー、G.	アルルの女第2組曲より	15
シュトラウスⅡ、J.	喜歌劇「こうもり」	14
ショパン、F.	ピアノ協奏曲第1番ホ短調 Op.11	14
デュカ、P.	交響詩「魔法使いの弟子」	14
バッハ、J.S.	小フーガト短調 BWV578	14
バッハ、J.S.	無伴奏チェロ組曲	14
スーザ、J.P.	行進曲「ワシントン・ポスト」	13
チャイコフスキー、P.I.	幻想序曲「ロミオとジュリエット」	13
チャイコフスキー、P.I.	交響曲第6番短調「悲愴」Op.74	13
ドビュッシー、C.A.	牧神の午後への前奏曲	13
プッチーニ、G.	歌劇「蝶々夫人」	13
ベートーヴェン、L.v.	メヌエットト長調	13
ラフマニノフ、S.	ピアノ協奏曲第2番ハ短調 Op.18	13
シベリウス、J.	交響詩「フィンランディア」	12
バッハ、J.S.	管弦楽組曲第2番短調 BWV1067	12
ベートーヴェン、L.v.	ヴァイオリンソナタ第5番ヘ長調 Op.24 春	12
ワーグナー、R.	歌劇「ローエングリン」	12
アンダーソン、L.	タイプライター	11
ヴェルディ、G.	歌劇「椿姫」	11
クライスラー、F.	美しきロスマリン	11
チャイコフスキー、P.I.	序曲「1812年」	11
バッハ、J.S.	マタイ受難曲	11
ベートーヴェン、L.v.	ピアノ協奏曲第5番変ホ長調 Op.73「皇帝」	11
レスピーギ、O.	交響詩「ローマの松」	11
ロッシーニ、G.	歌劇「セビリアの理髪師」	11
クライスラー、F.	愛の喜び	10

サン＝サーンス、C.	交響曲第3番「オルガン付き」	10
チャイコフスキー、P.I.	ピアノ協奏曲第1番変ロ短調Op.23	10
ベートーヴェン、L.v.	劇付随音楽「アテネの廃墟」よりトルコ行進曲	10
モーツァルト、W.A.	交響曲第40番ト短調K.550	10
ワーグナー、J.F.	行進曲「双頭の鷲の旗の下に」	10

一見して分かるのは、採用数が増えている曲がほぼ「組曲」である、と言う点だろう。「くるみ割り人形」は実質的に「葦笛の踊り」4、「アラブの踊り」3、「序曲」1、「スペインの踊り」1、「中国の踊り」3、「花のワルツ」10、「行進曲」6、「こんぺいとうの踊り」6、「ロシアの踊り」6と、9曲分と組曲全体を採用したものと合算である。「動物の謝肉祭」も同様で、「化石」4、「亀」1、「フィナーレ」3、「水族館」5、「鳥かご」1、「序奏とライオンの行進」5、「象」9、「白鳥」12と、8曲分と全体との合算。ただし、この上位に曲にしても、「くるみ割り人形」は含まれる8曲全てに票が入っているのに対し、「動物の謝肉祭」は「おんどりとめんどり」「らば」「ピアニスト」「耳の長い登場人物」「カンガルー」「森の奥のカッコウ」は採用されずに抜けがある。また、推薦するにターゲットとなりやすい曲は前者では「花のワルツ」、後者では「白鳥」と、これは予想通りであった。リストのトップに来たのは、各曲をバラして集計すると全体を推挙したものを例えば「くるみ割り人形」なら8としてカウントする必要が生じるため、人気の有無を判断するにはこの形が有効と判断したことによる。

3位にランクしている「惑星」も「火星」4、「海王星」1、「金星」1、「天王星」1、「土星」1、「木星」14と「水星」が入っていないことに加え、ターゲットとなっているのは明らかに「木星」である。特に「木星」の14は「花のワルツ」の10、「白鳥」の12よりも多く、単独曲としては上位にランクするのだが、この一覧表では（備考欄を省略しているため）それが読み取りにくくなってしまっているので指摘しておく。

4位の「フィガロの結婚」も「序曲」11、「もう飛ぶまいぞこの蝶々」1、「手紙の二重唱」1、「恋とはどんなものかしら」3、と全体推挙との合算だが、単独で「歌劇 フィガロの結婚」を挙げたものも12と多かった。今回のテーマ講義では、歌劇を全体として扱うことはなかったのだが、提出されたリストには歌劇1曲全体を採用したものも数は少ないがあった（「さまよえるオランダ人」1）。上に掲げたランク表に見える歌劇は、すべてその歌劇中の有名なアリアや序曲などへの推挙である。また、前記の「さまよえるオランダ人」も、テーマ講義においては序曲を紹介しており、楽劇全体を推挙したものであるかどうかは判断出来ない（序曲、という記載が無かった）。

これら上位4曲を“複数曲による合算”と考えれば実質的には5位の「ボレロ」28がリストの最上位と解釈出来る。まさしくポピュラーピースのトップ、と言えるだろう。この

28という採用数は、モーツァルトの「K.331（トルコ行進曲）」と同じであり、後者はかつての共通教材という優位的立場にあることと較べると、「ボレロ」の突出は評価すべきものであると考える。因みに現在、中学校の教科書には「ボレロ」が参考曲扱いで記載されるが、鑑賞曲となる保証はない。

上位ランクの中で意外だったのは、「わが祖国（ブルタヴァ）」や「交響曲第5番」という中学校の教科書にはかつての共通教材として今でも鑑賞必須に近い形で扱われている曲より上位に「交響曲第9番 新世界より」がランクインしたことである。23採用と24採用なので差は1に過ぎないが、共通教材として扱われたこともない「新世界」がランキング上位に来るのは、恐らく第2楽章の知名度だと思われる（部分的に採用したものは「第2楽章」5、「第4楽章」3なので曲全体の採用は15である）。

3. 提案と考察

ここまでテーマ講義での紹介曲と、学生がリストアップしてきた曲目との関連について概観したが、大まかな結論は「講義で紹介された楽曲はほぼ採用された」というものになる。171曲中、履修者32人の作成したリストの中に用いられなかったのは5曲のみ。これは当初の想定とは大幅に異なるものである。しかし、ここから一つの結論が得られる。紹介曲171の中で、強い支持を得たものを再編すれば「リスト作成以前のプレ常識曲」を定めることが可能となる。次項3-1に「提案1」として示すこととする。この「プレ常識曲リスト」を踏まえ、音大生のための100曲リストの第1案を「提案2」として示す。

・3-1 提案

以下の表がその素案である。今回の一覧のうち、紹介曲のみを上位から並べ、採用数6までの97曲をテーマ講義履修に当たって「必ず聴いておく曲」、とする。本来なら、テーマ講義での紹介曲がリストに入ることはあっても多くはなるまい、という見立てが崩れたのだから、それを逆に「全員に課す（簡易な）課題」として利用すればリストの質は高くなる。声楽曲、ピアノ曲が少ないことが紹介曲リストの弱点であったが、「既に知っているべき」曲と考えれば、声楽曲、ピアノ曲には「知っているべき曲」の設定が少なくなるので、講義において多くの曲を紹介出来る。

提案1～《プレ常識曲リスト》

チャイコフスキー、P.I.	バレエ音楽「くるみ割り人形」	60	ラヴェル、M.	ボレロ	28
サン＝サーンス、C.	「動物の謝肉祭」	49	ムソルグスキー、M.	組曲「展覧会の絵」	27
ホルスト、G.	組曲「惑星」	29	チャイコフスキー、P.I.	バレエ音楽「白鳥の湖」	26
モーツァルト、W.A.	歌劇「フィガロの結婚」K.492	28	エルガー、E.	行進曲「威風堂々」第1番	25
モーツァルト、W.A.	ピアノソナタK.331	28	シューベルト、F.P.	「魔王」D.328	25

ドヴォルザーク、A.	交響曲第9番「新世界より」Op.95	24	アンダーソン、L.	タイプライター	11
バッハ、J.S.	管弦楽組曲第3番BWV1068より第2曲「G線上のアリア」	24	ヴェルディ、G.	歌劇「椿姫」	11
ベートーヴェン、L.v.	ピアノソナタ第14番嬰ハ短調Op.27-2「月光」	24	クライスラー、F.	美しきロスマリン	11
ベートーヴェン、L.v.	ピアノソナタ第8番ハ短調Op.13「悲愴」	24	チャイコフスキー、P.I.	序曲「1812年」	11
スメタナ、B.	交響詩「わが祖国」	23	バッハ、J.S.	マタイ受難曲	11
ベートーヴェン、L.v.	交響曲第5番ハ短調Op.67	23	ベートーヴェン、L.v.	ピアノ協奏曲第5番変ホ長調Op.73「皇帝」	11
モーツァルト、W.A.	セレナーデ「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」K.525	23	レスピーギ、O.	交響詩「ローマの松」	11
アンダーソン、L.	トランペット吹きの日	20	ロッシェニ、G.	歌劇「セビリアの理髪師」	11
エルガー、E.	愛の挨拶	20	クライスラー、F.	愛の喜び	10
ガーシュイン、G.	ラブソディ・イン・ブルー	20	サン＝サーンス、C.	交響曲第3番「オルガン付き」	10
メンデルスゾーン、F.	夏の夜の夢より	20	ジョプリン、S.	Easy Winner	10
モーツァルト、W.A.	歌劇「魔笛」K.620	20	チャイコフスキー、P.I.	ピアノ協奏曲第1番変ロ短調Op.23	10
グリーグ、E.	組曲「ペール・ギュント」	19	バッハ、J.S.	イタリヤ協奏曲BWV971	10
スッパ、F.v.	歌劇「軽騎兵」序曲	19	ベートーヴェン、L.v.	劇付随音楽「アテネの廃墟」よりトルコ行進曲	10
バッハ、J.S.	トッカータとフーガ ニ短調BWV565	19	モーツァルト、W.A.	交響曲第40番ト短調K.550	10
ベートーヴェン、L.v.	バガテルWoO.59「エリレーのために」	19	ワーグナー、J.F.	行進曲「双頭の鷲の旗の下に」	10
ロッシェニ、G.	歌劇「ウィリアム・テル」	18	サン＝サーンス、C.	交響詩「死の舞踏」	9
サティ、E.	3つのジムノペディ	17	プロコフィエフ、S.	交響的物語「ピーターと狼」Op.67	9
ハチャトゥリアン、A.I.	バレエ音楽「ガイーヌ」より剣の舞	17	ベートーヴェン、L.v.	交響曲第7番イ長調Op.92	9
ビゼー、G.	カルメン第1組曲より	17	ラヴェル、M.	バレエ音楽「ダフニスとクロエ」	9
ブラームス、J.	ハンガリー舞曲	17	ドビュッシー、C.A.	交響詩「海」	8
シュトラウスII、J.	ワルツ「美しく青きドナウ」	16	バホーゾ、A.	ブラジル	8
ベートーヴェン、L.v.	交響曲第9番ニ短調Op.125「合唱付き」	16	ブラームス、J.	交響曲第1番ハ短調	8
ポロティン、A.	歌劇「イーゴリ公」より だったん人の踊り	16	ベートーヴェン、L.v.	交響曲第3番変ホ長調Op.55「英雄」	8
ビゼー、G.	アルルの女第2組曲より	15	ベートーヴェン、L.v.	交響曲第6番ヘ長調Op.68「田園」	8
ベートーヴェン、L.v.	ピアノソナタ第17番ニ短調Op.31-2「テンペスト」	15	シュトラウスII、J.	ピチカート・ホルカ	7
シュトラウスII、J.	喜歌劇「こうもり」	14	ストラヴィンスキー、I.	バレエ音楽「火の鳥」	7
ショパン、F.	ピアノ協奏曲第1番ホ短調Op.11	14	プロコフィエフ、S.	ピアノ協奏曲第3番	7
ジョプリン、S.	The Entertainer	14	ベートーヴェン、L.v.	ピアノソナタ第21番ハ長調Op.53「ヴァルトシュタイン」	7
デュカ、P.	交響詩「魔法使いの弟子」	14	ベートーヴェン、L.v.	ピアノソナタ第26番変ホ長調Op.81a「告別」	7
バッハ、J.S.	小フーガト短調BWV578	14	ベルリオーズ、H.	幻想交響曲	7
バッハ、J.S.	無伴奏チェロ組曲	14	ワーグナー、R.	楽劇「トリスタンとイゾルテ」	7
スーザ、J.P.	行進曲「ワシントン・ポスト」	13	シューマン、R.	ピアノ協奏曲 イ短調 Op.54	6
チャイコフスキー、P.I.	幻想序曲「ロミオとジュリエット」	13	ショパン、F.	ピアノ協奏曲第2番ヘ短調Op.21	6
チャイコフスキー、P.I.	交響曲第6番ロ短調「悲愴」Op.74	13	ストラヴィンスキー、I.	バレエ「ペトルーシュカ」	6
ドビュッシー、C.A.	牧神の午後への前奏曲	13	ストラヴィンスキー、I.	バレエ音楽「春の祭典」	6
ブッチェーニ、G.	歌劇「蝶々夫人」	13	タイケ、K.	行進曲「旧友」	6
ベートーヴェン、L.v.	ピアノソナタ第23番ヘ短調Op.57 熱情	13	ブラームス、J.	大学祝典序曲	6
ベートーヴェン、L.v.	メヌエットト長調	13	ベートーヴェン、L.v.	ヴァイオリンソナタ第9番イ長調Op.47 クロイツェル	6
ラフマニノフ、S.	ピアノ協奏曲第2番ハ短調Op.18	13	ベートーヴェン、L.v.	劇音楽「エグモント」Op.84	6
シベリウス、J.	交響詩「フィンランディア」	12	ムソルグスキー、M.	禿山の一晩	6
バッハ、J.S.	管弦楽組曲第2番ロ短調BWV1067	12	ラフマニノフ、S.	交響曲第2番Op.27	6
ベートーヴェン、L.v.	ヴァイオリンソナタ第5番ヘ長調Op.24 春	12	リスト、F.	交響詩「レ・プレリュード」	6
ワーグナー、R.	歌劇「ローエングリン」	12			

(黄色いセルはピアノ曲、紫のセルは声楽曲)

そして、今回の資料から「音大生のための100曲リスト」としての予備案も同時に作成出来る。623曲から上記97曲（知っているべき曲）を省き、残った曲からの上位でリストを作成すると以下のようなものになる。

提案2～《音大生のための100+10曲リスト》

作曲家	曲名	数
モーツァルト、W.A.	きらきら星変奏曲K.265	19
ショパン、F.	ノクターン	18
リスト、F.	バガニーニ大練習曲より 第3番「ラ・カンパネラ」	18
ショパン、F.	バラード	17
ラヴェル、M.	亡き王女のためのパヴァーヌ	17
ドビュッシー、C.A.	2つのアラベスク	16
ドビュッシー、C.A.	ベルガマスク組曲	15
リスト、F.	愛の夢第3番	15
パッヘルベル、J.	「3つのヴァイオリンと通奏低音のためのカノンとジーク」二長調より カノン	14
ショパン、F.	即興曲第4番嬰ハ短調Op.66「幻想即興曲」	14
ヴィヴァルディ、A.	合奏協奏曲「和声と創意の試み」より「四季」	13
ドヴォルザーク、A.	スラブ舞曲集	13
ショパン、F.	ワルツ第6番Op.64-1「小犬」	13
リスト、F.	ハンガリー狂詩曲	13
シューベルト、F.P.	歌曲「野ばら」D.257	13
ショパン、F.	エチュードOp.10-12「革命」	12
ドビュッシー、C.A.	前奏曲第1集より「亜麻色の髪の乙女」	12
ラヴェル、M.	水の戯れ	12
ショパン、F.	ポロネーズ第6番「英雄」	11
ドビュッシー、C.A.	喜びの島	11
バーンスタイン、L.	キャンディード	10
ビゼー、G.	カルメン第2組曲より	10
シューマン、R.	子供の情景 Op.15	10
ショパン、F.	エチュードOp.10-3「別れ」	10
ドビュッシー、C.A.	「子供の領分」	10
ドビュッシー、C.A.	夢	10
バッハ、J.S.	カンカータ「口と心と行いと生活で」BWV147より 主よ人の望みの喜びよ	9
ビゼー、G.	アルルの女第1組曲より	9
モーツァルト、W.A.	レクイエムニ短調K.626	9
ラフマニノフ、S.	前奏曲嬰ハ短調Op.3-2「鐘」	9
シューベルト、F.P.	エレンの歌第3番「アヴェ・マリア」D.839	9
シュトラウスI、J.	ラデツキー行進曲	8
バーンスタイン、L.	ミュージカル「ウエストサイド物語」	8
ビゼー、G.	歌劇「カルメン」	8
ブッチーニ、G.	歌劇「トゥーランドット」	8
モーツァルト、W.A.	2台のピアノのためのソナタニ長調	8

アンダーソン、L.	そりすべり	7
オッフエンバック、J.	歌劇「地獄のオルフェ（天国と地獄）」	7
ヘンデル、G.F.	オラトリオ「メサイア」	7
メンデルスゾーン、F.	ヴァイオリン協奏曲ホ短調Op.64	7
リムスキー＝コルサコフ、N.A.	歌劇「皇帝サルタンの物語」より 熊蜂の飛行	7
チャイコフスキー、P.I.	「四季」	7
ブルグミュラー、J.F.	25の練習曲Op.100-25 貴婦人の乗馬	7
ガーシュイン、G.	アイ・ガット・リズム	7
シューベルト、F.P.	歌曲集「白鳥の歌」	7
ガーシュイン、G.	歌劇「ポーギーとベス」	6
チャイコフスキー、P.I.	バレエ音楽「眠れる森の美女」	6
ドヴォルザーク、A.	ユモレスク第7番	6
ドビュッシー、C.A.	シランクス	6
ブッチーニ、G.	歌劇「トスカ」	6
シューマン、R.	謝肉祭Op.9	6
ドビュッシー、C.A.	「ピアノのために」より プレリユード	6
モーツァルト、W.A.	ピアノソナタK.545	6
シューマン、R.	歌曲集「詩人の恋」	6
オルフ、C.	世俗カンタータ「カルミナ・ブラーナ」	5
シャミナード、C.	フルート小協奏曲（コンチエルティーノ）Op.107	5
シューベルト、F.P.	ピアノ五重奏曲「鱒」D.550	5
スーザ、J.P.	行進曲「星条旗よ永遠なれ」	5
チャイコフスキー、P.I.	弦楽セレナーデ ハ長調Op.48	5
ハイドン、F.J.	交響曲第94番ト長調「驚愕」	5
モーツァルト、W.A.	歌劇「コシ・ファン・トゥッテ」	5
モーツァルト、W.A.	歌劇「ドン・ジョヴァンニ」K.527	5
モーツァルト、W.A.	交響曲第25番ト短調K.183	5
モンティ、V.	チャルダッシュ	5
レハール、F.	喜歌劇「メリー・ウィドー」	5
シューベルト、F.P.	楽興の時D780 Op.94	5
シューマン、R.	幻想小曲集Op.12	5
ショパン、F.	エチュードOp.10-5「黒鍵」	5
ショパン、F.	エチュードOp.25-11「木枯し」	5
ショパン、F.	スケルツォ	5
ショパン、F.	ワルツ第1番Op.18「華麗なる大円舞曲」	5
ジョプリン、S.	Maple leaf rag	5
ネッケ、H.	クシコスポスト	5
バッハ、J.S.	2声のインベンションBWV772-BWV786	5
バッハ、J.S.	3声のインベンションBWV787-BWV801	5
バッハ、J.S.	平均律クラヴィーア曲集	5
ブルグミュラー、J.F.	25の練習曲Op.100-02 アラベスク	5
山田耕筰	からたちの花	5
ヴェルディ、G.	レクイエム	4

ガーシュイン、G.	パリのアメリカ人	4
チャイコフスキー、P.I.	交響曲第5番 Op.64	4
バガニーニ、N.	24の奇想曲 Op.1	4
ビゼー、G.	組曲「アルルの女」	4
ホルスト、G.	吹奏楽のための組曲第2番へ長調	4
モーツァルト、W.A.	オーボエ協奏曲ハ長調 K.314	4
モーツァルト、W.A.	フルート協奏曲第2番	4
ラヴェル、M.	マ・メール・ロワ	4
レスピーギ、O.	交響詩「ローマの祭り」	4
ロドリゴ、J.	アランフェス協奏曲	4
ショパン、F.	エチュード Op.25-1	4
ショパン、F.	エチュード Op.25-12「大洋」	4
ショパン、F.	ポロネーズ第3番「軍隊」	4
ショパン、F.	ポロネーズ第7番「幻想」	4
バダジェフスカ、T.	「乙女の祈り」 Op.4	4
ブラームス、J.	ワルツ第15番変イ長調 Op.39-15	4
ブルグミュラー、J.F.	25の練習曲 Op.100-15 バラード	4
ブルグミュラー、J.F.	25の練習曲 Op.100-20 タランテラ	4
ベートーヴェン、L.v.	ピアノソナタ第15番二長調 Op.28「田園」	4
モーツァルト、W.A.	ピアノソナタ K.283	4
モーツァルト、W.A.	ピアノソナタ K.574	4
ラヴェル、M.	鏡	4
リスト、F.	3つの演奏会用練習曲	4
リスト、F.	巡礼の年 第2年補遺 ヴェネツィアとナポリより 第3曲「タランテラ」	4
リスト、F.	超絶技巧練習曲	4
リスト、F.	メフィスト・ワルツ第1番	4
リスト、F.	死の舞踏	4
シューベルト、F.P.	歌曲「子守唄」	4
シューベルト、F.P.	歌曲「鱒」	4
サティ、E.	ジュ・トゥ・ヴ	4
ベートーヴェン、L.v.	君を愛す (Ich liebe dich)	4

(黄色いセルはピアノ曲、紫のセルは声楽曲)

この《音大生のための100+10曲リスト》は即ち、授業では紹介しなかった曲で、純然と履修者側から「この曲ならば知っているべき」と上がったもののうち上位を占めた曲である。100より10曲増えてしまったのは採用5までにすると総局数が78と大きく100を下回るためである。このリストにある声楽曲は10、ピアノ曲は56、それ以外が44であり、紹介曲リストから精選された「プレ常識曲リスト」が大きく管絃楽に偏ったことを相殺する効果が期待出来る。

この「提案2」が、本論における一応の結論となる。

・3-2 考察

— テーマ講義に関して —

結論として前項にリストを示したが、通常なら結論の前に置く考察を取って後書き代わりに添えたい。

本研究に着手する際、一つの仮定として「音大生はクラシックを聴かない」としたのだが、必ずしも聴かないわけではない、と言うことを提唱しておきたい。

テーマ講義は「自由科目」に属し、履修に学年やそれまでに取得する科目などの履修制限はない。一般の大学とは異なり、専門科目が多い音楽大学では、卒業に必要な単位を満たすために自由に履修できる科目が限られることが多く、それを払拭するためにⅠ～Ⅷの数字を付して講義担当者に自由に講義テーマを設定することを許している。つまりこの科目を履修する学生は、まず一年生が空き時間の有効利用として、次に卒業単位が不足した上級生（多くは三、四年生）が“単位ほしさに”、という予測が立つ。ポジティブに、講義内容を見て履修するものは多くないであろうと予想したが故に、第一回から第三回までは敢えて「これを音大生に敢えて聴かせるか」という曲のみを用いてハードルの低さを強く認識させるように心がけた。

功を奏したのかもしれないが、履修登録しただけで出席しない「放棄」がほとんど出なかった。

逆に言うと、あまりモチベーションの高くない履修者を最後まで引っ張れたことは成果だと考えている。実際、第一回から第三回までの主に小学校で聴いたはずの曲に関して「聴いたことはあるが曲はわからない」という反応は非常に多かった。筆者がかなり驚いたのはスッペ「軽騎兵」など聴いたこともない、という反応であった。音楽の授業ではなく、運動会や放課の時間にBGMやサウンドスケープ的意味合いで用いられると考えられる曲を選択したつもりであったため、これはひょっとしたら講義後半では履修者が激減するのではと心配した事もあった。

履修者の反応を各曲ごとにきちんと集計したわけではないので、あくまで授業者としての見立てに過ぎないが、かなり難曲であろう、聴いたことはないであろう、という曲にもそれなりの反応を示してくれたと感じる。原因の一つは、一曲の紹介時間を短くしたことであるが、換言すれば全曲通して聴くことはない、という事でもあり、楽曲紹介系の講義としては問題を含んでいる。紹介する部分にも楽曲ごとに工夫が必要で、いきなり第一主題が出るような曲であれば短い紹介時間で済むが、長大な序奏があったりするとそこをスキップすべきかで悩むことになる。事実、未完成交響曲などは冒頭、第一主題、終結部とバラバラに紹介している。その一方でチャイコフスキー「悲愴」は第一楽章の冒頭から早送りせず15分くらい使用している。楽曲によって紹介の仕方が異なっているため、履修者への印象も異なっていることは間違いない。

つまり、授業を開講している期間中は、その授業の内容を論文として報告することを考えていなかった。今となっては残念である。各紹介曲への「反応」をデータ取りしておけば、「プレ常識曲リスト」はもう少し曲数を絞れたはずだと考える。

そんな反省点はある一方、素案とは言え百曲（+十曲）のリストができたことにはそれなりの達成感を感じている。知らなければいけない曲、知っていた方が良い曲、という二つの楽曲群をどのように活用するかは次年度への課題となろう。

一 音大生の音楽聴取について

末尾ながら、集計しながら気づいた点をいくつか上げておく。

授業ではピアノ曲をほとんど揚げなかった（全体の10%以下）が、かなり多くのピアノ曲がリストには採用されている。そのほとんどが「音大生がよく演奏する楽曲」と判断でき、要は自らの音楽経験に準えてリストを作っていると推測することができる。

これは歌曲にも同じことが言える。採用数が多くなかったためリストからは選外となっているが、山田耕筰「かやの木山の」、カッチーニ「アマリツリ」、ドナウディ「ああ、愛する人の」など、主に声楽専攻や副科の声楽でレッスン体験があると思われる曲（もしくはそうして演奏する友人の歌声に触れた曲）が選ばれている。これは予想できたことだが、レッスン経験由来で「ブルグミュラー25の優しい練習曲」が多くリストに入ったのは全くの予想外であった。これは履修者に一年生が多かったこと、ピアノ初学者（初心者ではなくて）が多く、レッスンでは本当の初歩教材に触れていることが原因であると予想できる。見方を変えれば、その25の練習曲の中でも認知度が高いのはどの曲なのか（貴婦人の乗馬、アラベスク、バラード、タランテラ）を示したといえる。ピアノ初学者の教材選定の根拠がこのリストから読み取れたのは意外であった。

他方、難曲も多くリスト入りしている。ショパンのエチュード、リストの超絶技巧練習曲、などである。リスト「死の舞踏」は、サン＝サーンスの交響詩とは別枠でリストに入っており、流石にこの曲を一年生でレッスンしているものがそう多いとは思えない。この曲などはまさしく「見た経験」「聞いた経験」からリスト入りしたと考えているが、こうなるとその見聞きした経験がライブなのか、録画録音なのかを知りたくなる。私を知る限り、学内でこの曲が日常的に聞こえることはないからだ。媒体ごとの聴取経験は今回の調査にはまったく現れないのだが、予想するのはネット上のデジタル音源による聴取、視聴になる。なんとかこれを判別できるような調査方法を案出できないか悩ましいところである。

ベートーヴェンのソナタは、ピアノ曲の中ではかなり偏って紹介し、その全てが「プレ常識曲リスト」に入ったが、その反動で「100+10曲リスト」には「ソナタ第28番 田園」しか入っていない。実はリスト選外にはソナタの第4、5、11、27～32番も採用されていたのだが、採用数が少ないので100+10曲リストからは漏れている。特徴的なのは、漏れ

たソナタはほとんどが採用数1だが一つだけ採用数2だったのが「ソナタ第29番 ハンマークラヴィア」だったこと。採用された唯一曲が田園、選外の第一位がハンマークラヴィア。リストに採用される曲には「表題がある」という特徴が指摘できる。

これはショパンのエチュードにも言えて、作品10のエチュードの場合リスト入りが3番別れ、5番黒鍵、12番革命と全て表題付きであり、表題のない1番、4番、9番、10番などは選外になっている。9番などは最も技術的に平易で演奏経験のある者もいると予想できるのだが、採用数は低かった。作品25のエチュードに至っては採用されたのは1番エオリアン・ハーブ、9番蝶々、11番木枯らし、12番大洋と全て表題付きで、表題なしの他の曲は一曲もリストに採用されなかった。1番などは「エオリアン・ハーブ」という通称を用いない方が一般的だと考えているが、敢えてその名称を使った者が4採用のうち3であり、「表題がある」ことが曲の認知に強いバイアスをかけていることがわかる。作品25においては2番が最も平易な曲であるが、これを上げたものはやはりいなかった。

かくして次年度に向けての課題になるのは、「表題なしの曲」の曲名を如何にして定着させるか、になる。これは講義を通して気づいたことだが、音響現象としての音楽には一定の経験を有していても、それを知識体系として記憶に留めるには“記号”が必要になるのに、音楽大学の学生はその“記号”に重きを置いていない、ということである。たとえばバッハの作品であればBWV番号、モーツァルトの作品であればK番号。今回の講義でトルコ行進曲付きはK.331だ、ということは恐らく認知してくれたとは思いますが、あくまで「その程度」である。

入門者のための教養授業として構想したテーマ講義ではあるが、リストを作成する作業の中で見えてきたもう一つの目標は「音楽学的アプローチへのプロローグ」である。筆者には荷が重いかもしれないが、次年度に向けて新たな方法論を考えてみたい。